

教科 【 技 術 】

■生徒の状況

- ・タブレットの操作が身に付いてきている。
- ・実習などに興味をもって取り組む生徒が多い。
- ・授業に集中できない生徒がいる。

■指導における課題

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実するための指導法の工夫。
- ・作業進度の差が出たときの対応の仕方の工夫。
- ・作業手順や、作業のポイントの指導の仕方の工夫。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	・「めあて」と「流れ」を必ず提示する。振り返りをフォームに入力させる。製作時は作業工程を選択することで自分の進度の把握させる。授業の振り返りは80字以上入力させる。 ・生徒の実態に応じた課題の最適化（つまりきへの対応）：技能の習得に困難さを感じる生徒には個別に支援する。生徒自身の技能レベルに合わせて課題のハードルを柔軟に調整することで、作業の停滞を防ぎ、すべての生徒が確かな達成感を得られるようにする。
視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実するための指導法の工夫：座学では3人組、4人組での話し合い活動を取り入れる。製作時は振り返りで作業工程の進度を確認させる。 ・作業進度の差が出たときの対応の仕方：作業が遅れている生徒には個別に指導し、進度の早い生徒はアドバイザーとして活躍させる。 ・作業手順や、作業のポイントの指導の仕方：板書やスライド、実物投影機を活用し、具体的なイメージをもたせる。
視点3 総合的な学習の時間との連携	SDGs・地域課題の探究：総合的な学習の時間で扱う「環境保護」や「防災」のテーマと連動させ、技術科において「環境に配慮した材料と加工の技術、エネルギー変換効率」や「環境保全を目的とした生物育成の技術」などを実践する。